

○一般の部

受賞区分	氏名またはペンネーム	タイトル	エピソード
大賞	(福井市在住) 杉本 歩	子どもも私も笑顔になりました。	約10年前、当時2歳の子供にバスからの景色を見せてあげたいと、抱っこ紐で数十年ぶりにバスに乗った日のことです。久しぶりのバスということに加え、子供がいることもあって、ちゃんと乗れるかドキドキしながら席に座りました。すると心配していたことに、子供が泣き出したのです。おろおろする私に、運転手さんが、「よろしければ一番前の席にどうぞ。子供さんも周りの景色も見やすいですよ。ゆっくりでいいですよ。」と声をかけてくださり、お言葉に甘えて移動させてもらいました。その後子供はその言葉通り、高い位置からの眺めを楽しんでいるかのように、不思議と泣き止んだのです。降車の際、慌てて降りようとする私にも気遣ってくださり、子育てまで励まされているような気持ちになったあの日のことを今でも覚えています。あの時の運転手さん、本当にありがとうございました。
優秀賞	(福井市在住) 長谷川 とよ子	おおきくなったら、運転士	米寿お祝に家族で招待された日。電車大好きな孫に「ばあちゃんと電車で行く。」と誘われ福鉄に乗って出かけました。電車の中では「『出発進行』」てかっこいいね。」「止まる時、キーキー。と音がするね。」と興奮気味。西鯖江駅に到着し、運転士さんに「バイバ～イ」と手を振ると丸顔の運転士さんにもこやかに手を振ってくれました。優しい運転士さん有難うございました。これを機に孫は“大きくなったら運転士になる”と張り切っています。その時まで、待っていてくださいね！
優秀賞	(福井市在住) 浅原 寛子	電車はタイムマシン！	息子が小さい頃、最寄りの田原町駅より、えちぜん鉄道に乗って福井駅前によくお出かけしていました。車と違って電車は乗ってしまえば、母も子も一緒に風景を楽しむことができ、のんびりゆったりとした時間を過ごすことができます。その息子も、もう20才を過ぎ、母と一緒に電車など乗ってくれませんが、一人で電車に乗った時はタイムマシンのように懐しい思い出がよみがえり、電車時間を楽しんでいる今日この頃です。
入選	(福井市在住) ペンネーム シェリー	バスは私の生活の一部	私は現在、福井で母子家庭の母をしている。子供は三人。“電車社会”の東京で生まれ育った事もあってか毎日通勤にはバスを利用する。そんな私の朝は、子供達を「行ってらっしゃい」と学校に送り出す事から始まる。そして私は一人、「ってきます。」と誰もいなくなった家に言い、バスで出勤するのだ。ある朝。もうすぐ会社の最寄。バスを降りる私に「行ってらっしゃい」と。その日は運転手さんの温かい言葉に背中をおしてもらい出勤できたのだ。
入選	(越前市在住) ペンネーム 田んぼのやえちゃん	心あたまる初乗車	孫を連れて電車で駅前まで出掛けた日の事です。孫の世話とベビーカを押しての初乗車です。不安と緊張でしたが運転手さんがベビーカを乗せてくれ、下車する時も降ろしてくれました。日中の時間帯であったから出来た事かもわからないですが、嬉しくなりました。 地方鉄道の減便といった暗い話題もあるが、人に対して心のこもった接客は、大変ありがたく、また鉄道好きの孫と乗車したいと思います。帰りも同じ運転士さんで、ほっこりしました。ありがとうございました。
入選	(坂井市在住) ペンネーム そうすけ	お兄ちゃんを見る願いのキーボ	「ほら！またいるよ！」 お兄ちゃんの病院に向かう時間、駅でいつも停車していたキーボ。 近くで見たいという弟妹はずっとお預けをくらっていましたが、 ある日、とうとう、お兄ちゃんの外出許可が出ました。 「ゆっくり見て行って！中もどうぞ。」 車掌さんの温かい言葉に、写真を撮ったり中を見せてもらったり…。車椅子だってスイスイ。 我が家には夢のような時間でした。 写真は今もリビングに。 きょうだい3人の大切な思い出です。
佳作	(鯖江市在住) ペンネーム ぼかぼかバアバ	幸せふくらむ、ぼかぼか冬の電車旅	今年の一月下旬、小雪の舞う寒い土曜日、私は、電車が大好きな二人の孫たちと福井駅から福武線に乗り西山公園まで行きました。電車の中はぼかぼかと暖かい。孫たちはすぐ吊り革の持ち手が赤いカニさんになっていることに気付きました。パパとママに代わる代わる抱っこしてもらいながら、カニさんを握って嬉しそう顔。帰りのホームではカニさんポーズを取りながらこんな会話。「今度は何色の電車が来るかなあ。」「キーボかなあ。」
佳作	(福井市在住) ペンネーム バンク	日本へ来てバス乗る	高校生の時、初めて日本に来たのは福井県でした。遠方へ行くにはバスを使わないといけないので福井のバス乗っていた。最初はまだ道とバスの乗り方がわからなくて心配した。留学生の友達とどこかのビーチに行きたかと思っていて先生が私たちをバスまで送ってくれた。運転手は、私たちが外国人であることを知っていて、行き方や帰りはどうすべきかアドバイスしてくれて、旅行につて心配する必要はなかった。安心した。日本のバスに乗って印象深い出来ことだ
佳作	(福井市在住) ペンネーム たまちゃん電車	電車との出会いは散歩から	コロナ禍に子どもが生まれた。なかなか出かけることができず、散歩が日課だった。電車や踏切を見に行くことも多かった。最初は、大きな音に泣くこともあった。でも次第に、電車が大好きになった。コロナが少し落ち着いた頃、初めて福鉄に乗った。緊張した顔だったが、周りをキョロキョロ見回していた。たった二駅分だったけど、子どもの顔は嬉しそうだった。それから、えち鉄などにも乗った。今度は、新幹線で遠出しようね。
佳作	(越前市在住) ペンネーム ちっちゃん	老々介護の小さな旅	主人のリハビリを兼ねて越美北線小浜線とのんびりと楽しんでいました。94才になる母に話したところ「私も電車に乗ってみたい」と言われ、杖の主人と腰痛の私、車イスの母でえち鉄で三国までの小さな冒険です。キャビンアテンダントの方の親切な乗り降りの助けで不安がなくなり、海と空をのんびりながめ親孝行が出来ました。楽しい思い出となりました。お世話になりました。